

公明党 池上 茂樹 議員



- 1 災害時要援護者台帳について
- 2 図書行政について

質問1(1) 災害時に自らの身を守ることが困難な高齢者や障がい者等の要援護者を適切に避難させる体制を整備したのが、災害時要援護者台帳だが、台帳の登録者数及び更新時期について。

答弁1(1) 災害時要援護者台帳への登録者は、5,199名で1,465名が未登録となっている。台帳整備後の更新は行っていない。

質問1(2) 台帳への登録を拒む理由と未登録者に対する災害時の対応は。

答弁1(2) 個人情報漏洩を心配したり、近所付き合

いを拒んでいる等の理由で登録されていない。災害時の未登録者への対応は、市の災害対策本部の指示により「要援護者名簿」を防災関係部課や関係機関、自治会等に提供し、安否確認や支援等に使用する。

質問2 市立図書館は休館日の月曜日が祝日と重なった場合、開館されていないが、市民サービス向上のため開館すべきではないか。また、月末日が図書整理日で休館するが、8月31日の夏休み最後の日は宿題の追い込みで、子どもたちが利用できるよう開館すべきであると考えている。

答弁2 図書館の休館日が祝日と重なる場合の休館日の振替えについて、現状で対応したい。8月31日の夏休み最後の日休館日に関しては、今後、検討したい。

無所属 森 雅之 議員



- 1 平田野中学校移設工事について
 - (1) 予定、予算について
 - (2) 空調設備について
 - (3) 工事の発注について

質問1(1) 平田野中学校移設工事の予定と予算は。

答弁1(1) 平成24年度には、校舎、屋内運動場、プール等の建築工事に着手し、平成26年9月の開校に向けて事業を進めていきたい。予算については概算工事費で、用地費約4億円、測量、埋蔵文化調査、地質調査、基本設計・実施設計等の調査、設計費約2億円、校舎、屋内運動場、プール、その他の附属建物等の建設費が約25億円、グランド、排水、駐車場、水道等その他工事が約6億5千万円、合計約37億5千万円。

質問1(2) 亀山市、桑名市、玉城町などでは小学校、中学校の普通教室に空調(エアコン)が取り付けられているが、昨今問題となっている地球温暖化・熱中症対策等を踏まえて、平田野中学校に空調を設置する予定は。

答弁1(2) 普通教室への予定はない。鈴鹿市では基本的には図書室やパソコン教室などの特別教室や職員室、保健室などの管理教室には空調設備を設置している。

質問1(3) 平田野中学校の工事の発注については。

答弁1(3) 従来、市内業者で施工できるものは、原則市内業者に発注している。平田野中学校についても企業規模や技術者数等を勘案したうえで鈴鹿市内の建設業者が参入できるような方法を検討していきたい。

無所属 板倉 操 議員



- 1 子どもの命と健康を守るしくみ作り
 - (1) 赤ちゃん全戸訪問事業を中心にして
- 2 障がい者自立支援法改正について
 - (1) 相談支援と障がい児支援の方向は

質問1(1) 子どもたちへの虐待が増加している。現在地域、保育所、幼稚園、学校と子どもの成長過程でそれぞれ目配りはされ始めているが命の誕生の所からその目配りを始める必要がある。また障がいを持つお子さんと保護者への早くからの支援も必要であり、10月から開始される乳児家庭全戸訪問事業は期待できる。しかし保健師の配置、二千人の赤ちゃんの健康情報の管理等の準備は万全か。命の誕生から行政が責任を持ち、子どもの命を守ることが重要である。

答弁1(1) 今までのしくみの足りない部分を自覚し、始める事業である。保健師が責任者となり主任児童委員等の助けを借り、取り組む。問題を抱える場合医師にも告げていく。保健情報の登録システムも作り、継続支援のしくみも整える。

質問2(1) 自立支援法の改正内容の中で、来年4月から相談事業の充実、障がい児支援の強化の方針が出たが準備はどうか。障がい児支援の強化であれば療育センターへの理学、作業療法士等の専門職の正規での配置が求められて来る。今後の考え方は。

答弁2(1) 具体的に国の考え方がはっきりせず、4月実施にはならないと思う。相談事業は支援センターが中心になり、療育センターの強化と言う事なので専門職の配置も考える時期が来ると思っている。